

種子更新をしましょう

《健苗づくりのポイント②》

育苗センターでは今月に入り、早期コシの播種作業が始まりました。良食味生産の取り組みにより、種子更新率は99%と増えてきましたが、コスト増となることから全国と比べるとはまだ低い値です。更新種子は県の指定圃場で厳密な審査により生産されるので品種特性が維持されます。

育苗には細心の注意と適切な管理が必要とされます。気象変動や慣れにより失敗しないようきめ細かな管理が求められます。

(1) 塩水選を必ず行う！

不良種子を取り除くためには種子を食塩水または硫安水につけます。罹病籾は浮き、健全籾は沈むので、素早くかき混ぜた後、浮いた籾やゴミを取り除き、沈んだ籾を回収しましょう。

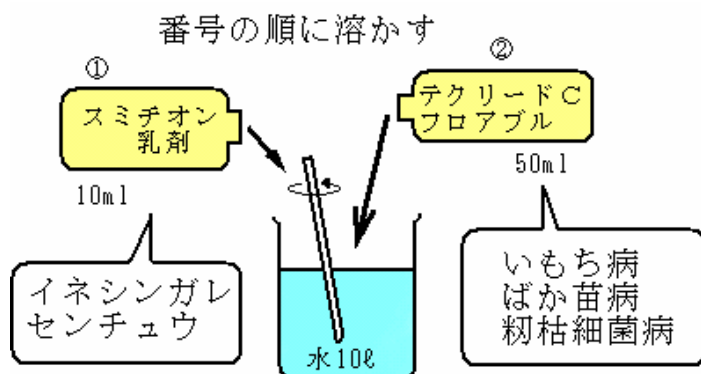
塩水選の濃度（水10ℓ当り）		
種別	うるち	もち
比重	1.10	1.06
並塩	1.55 kg	0.9 kg
硫安	1.98 kg	1.1 kg

(2) 水洗い・水切りを忘れず！

選別後、沈んだ籾を水道水の流水で水洗いして塩分をよく洗い流し、手にべとつかない程度に水を切ります。作業に手間がかかりますが塩水選は育苗の基本です。

(3) 種子消毒は適正に！

「テクリードCフロアブル」で種子消毒を確実にすれば、高い防除効果が得られます。同時にスミチオン乳剤を加えます。消毒液の作り方は、種籾5kgに対し消毒液を10ℓ用意し、一昼夜（24時間）浸漬します。



テクリードCは化学合成農薬ですが、最近では温湯消毒機を使った「温湯浸漬法」や微生物を利用した生物農薬があります。生物農薬「エコホープ」は、薬液の温度が10℃以

下や30℃以上になると効果が低下します。風乾しないで速やかに浸種します。いずれも取扱説明書に従い適切な処理が必要です。

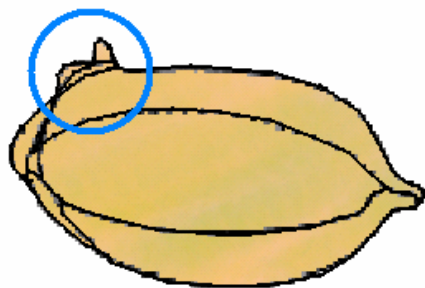
（２）浸種は十分に！

種籾の表面に付着させた薬剤を内部に浸透させ、均一に発芽させるために行います。浸漬方法は、水槽や桶に種籾量の2倍の水を入れます。水道水に浸漬し3日間水を動かさないようにし、4日目に静かに水を入れ替えて、新しい水に1～2日浸漬します。浸種期間の目安は、積算温度（水温×日数）で約100℃です。

水が腐らないよう涼しい場所で、種は粗目の網袋に7分目程。浸種完了は籾殻がアメ色に。

（３）催芽（芽出し）

この際に温度が高いと細菌性の病害が発生しやすくなります。発芽を均一にするために、催芽機や28℃以下のぬるま湯に1～2晩浸し、籾を1mm程度のハト胸状態に催芽させます。芽が長く伸びすぎないように注意します。芽が出揃ってから播種しましょう。



（４）育苗箱・育苗資材も完全消毒

水稻の育苗は高温・多湿状態で病原菌が繁殖しやすいので、育苗箱等使用する資材は消毒しましょう。ケミクロンG1000 倍液（水10ℓに薬剤10g）に10分間浸漬後、水洗し日光に十分に当て乾燥します。